

製品名: ヌクレオホスミンウサギモノクローナル抗体**カタログ番号:** AMRe02361

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.65mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 33 kDa; Observed MW: 38 kDa

抗原情報

遺伝子名	NPM1
別名	B23; NPM
遺伝子 ID	4869
SwissProt ID	P06748
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

背景

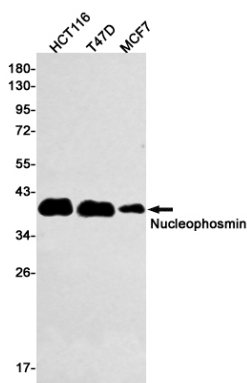
リボソーム生合成、中心体複製、タンパク質シャペロン、ヒストン組み立て、細胞増殖、腫瘍抑制因子 p53/TP53 および ARF の調節

など、多様な細胞プロセスに関与しています。リボソームに結合して、おそらくリボソームの核外輸送を促進します。核小体のリボ核タンパク質構造に関連し、一本鎖核酸に結合します。コアヒストン H3、H2B、および H4 のシャペロニンとして機能します。アプリン/アピリミジン (AP) 二本鎖 DNA に対する APEX1 エンドヌクレアーゼ活性を刺激しますが、AP 一本鎖 RNA に対する APEX1 エンドヌクレアーゼ活性は阻害します。rDNA 上の AP の修復と酸化 rRNA 分子の除去を行う核小体内の APEX1 エンドヌクレアーゼ活性を制御する可能性があります。BRCA2 と連携して、中心体複製を制御します。中心小体複製を制御する：PLK2 によるリン酸化は中心小体複製を誘導する。EIF2AK2/PKR の活性化を負に制御し、EIF2AK2/PKR の自己リン酸化を阻害することでアポトーシスを抑制する。ATF5 による細胞増殖阻害作用に拮抗し、ATF5 誘導性の G2/M 期遮断を軽減する (PubMed:22528486)。MYC と複合体を形成することで、MYC 標的遺伝子の転写を促進する (PubMed:25956029)。

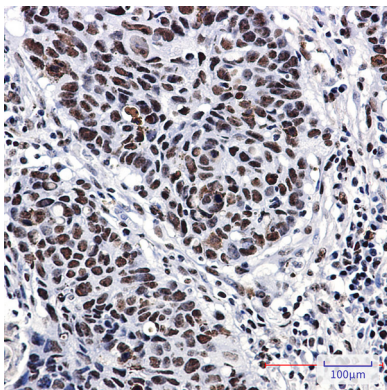
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



ヌクレオホスミン抗体を使用した、HCT116、T47D、MCF-7 溶解物中のヌクレオホスミンのウエスタンブロット分析。



ヌクレオホスミン抗体を使用したパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。